



Jems News

No. 156

2025 年 11 月 15 日

日本環境変異原ゲノム学会

<https://www.j-ems.org>

***** 学会・シンポジウム開催のお知らせ *****

「日本環境変異原ゲノム学会 第54回大会 静岡」のお知らせ

大会会長：伊吹 裕子（静岡県立大学）

日本環境変異原ゲノム学会第54回大会を、2025年11月22日・23日の2日間にわたり、静岡県立大学（草薙キャンパス）にて開催いたします。

本大会では、「老化」、「健康長寿」、「ゲノム変異」をキーワードに、将来に向けた新たな展開を見据えて、特別講演およびシンポジウムを企画しました。大会翌日の11月24日には、同じく静岡県立大学にてサテライトミーティング（QSAR ワークショップ）を開催いたします。詳細は大会 HP（<https://www.iems2025.jp/>）をご覧ください。

1. 日程

2025 年 11 月 22 日（土）～11 月 23 日（日）
（11 月 24 日（月）にサテライトミーティングを開催）

2. 会場

静岡県立大学 草薙キャンパス 〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1 (<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/>)

3. 大会テーマ：「超長寿時代を見据えてーゲノム変異と発がんの新知見ー」

4. プログラム

11 月 22 日（土）

開会式 8：45～8：50

一般口演 1 8：50～10：00 座長：松田 俊，堀端 克良

シンポジウム 1 10：10～12：10 座長：豊岡 達士，里本 健輔

「ライフスタイルと発がん・遺伝毒性～外因性化学物質によらない影響を考える～」

- ・「労働者のライフスタイルと尿中バイオマーカーを指標とした酸化ストレス」
河井 一明（産業医科大学 産業生態科学研究所）
- ・「ライフスタイルと末梢血ゲノム DNA 安定性」
呂 玉泉（大阪大学 大学院医学系研究科）
- ・「エストロゲン誘発性乳がん形成における脂質メディエーターを介した新規発がんメカニズムの探索」
岡本 誉士典（名城大学 薬学部）
- ・「Actinomyces odontolyticus 由来膜小胞による NF-κB 活性化を介した大腸腫瘍の形成促進機構」
大塚 基之（岡山大学 学術研究院医歯薬学域）

ランチョンセミナー1 12：20～13：20 座長：濱田 修一

「ゲノム編集を用いた遺伝学研究とゲノム編集細胞コレクションを用いた化学物質の細胞効果の評価について」
（ボゾリサーチセンター主催）

廣田 耕志（東京都立大学 理学研究科）

総会・授賞式 13：25～14：15

受賞講演 14:15~15:05 座長：松田 知成

- ・ 学会賞「次世代シーケンサー（NGS）とアダクトーム解析を用いた遺伝毒性物質の探索と発がんメカニズムに関する研究」
戸塚 ゆかり（星薬科大学）
- ・ 研究奨励賞「健康食品および医薬品による酸化的 DNA 損傷」
小林 果（三重大学 大学院医学系研究科）
- ・ 研究奨励賞「Pig-a アッセイプロトコルの精緻化と国際発信による OECD テストガイドライン化への貢献」
千蔵 さつき（Axcelead Tokyo West Partners 株式会社）

特別講演 15:15~16:15 座長：伊吹 裕子

「慢性炎症を標的として加齢病態を改善する」

中西 真（東京大学 医科学研究所 癌防御シグナル分野）

ポスター発表 16:20~17:20 奇数番号

情報交換会 18:30~20:20

ホテルグランヒルズ静岡 (<https://grandhillsshizuoka.jp/>)

11月23日（日）

一般口演 2 8:30~9:20 座長：佐々 彰，津田 雅貴

一般口演 3 9:25~10:05 座長：橋本 清弘，福田 隆之

シンポジウム 2 10:15~12:15 座長：小牧 裕佳子，笹谷 めぐみ

「老化と発がんにおける新知見」

- ・ 「膵がん治療標的としての老化細胞の解析」
高橋 暁子（公益財団法人がん研究会 がん研究所）
- ・ 「正常細胞における加齢や環境因子による体細胞変異」
吉田 健一（国立がん研究センター研究所）
- ・ 「正常上皮細胞と変異細胞間に生じる細胞競合」
藤田 恭之（京都大学 医学研究科）
- ・ 「日本人百寿者の多面的解析から見る健康長寿の生物学的基盤」
佐々木 貴史（慶応義塾大学 医学部）

ランチョンセミナー 2 12:25~13:25 座長：小山 直己

「Confident limit setting for nitrosamines and extractables & leachables using read-across」
(Lhasa Limited 主催)

David Ponting (Lhasa Limited)

ポスター発表 13:35~14:35 偶数番号

シンポジウム 3 14:40~16:40 座長：橋爪 恒夫，小山 直己，吉田 唯真

「Advancing Genotoxicity Assessment with 3D Tissue Models: Opportunities and Challenges」

- ・ 「International trends in the administrative use of NAMs and JaCVAM's strategy」
足利 太可雄（国立医薬品食品衛生研究所）
- ・ 「Use of reconstructed human skin tissues and human liver HepaRG cells improves prediction of in vivo genotoxicity」
Stefan Pfuhler (Procter & Gamble)
- ・ 「Bone Marrow Models and Beyond: Advancing Cell-Based Predictive Systems for Translational In Vivo Genotoxicity Assessment」
Joanne Elloway (AstraZeneca)
- ・ 「Optimization of an In Vitro Micronucleus Assay Using EpiAirway™: Toward Achieving Both Reliability and Inter-Laboratory Transferability」

閉会式 16:40~17:00

静岡県立大学は、緩やかな坂の上に位置しています。最寄りの JR 草薙駅および静岡鉄道草薙駅にはコインロッカーがありません。会場内のクロークもご利用いただけますが、坂道を重い荷物を持って上る必要があります。静岡駅にはコインロッカーがありますので、ぜひご活用をご検討ください。

参加登録は当日まで Web で受け付けますが、お支払方法は銀行振り込みのみとしています。当日参加の方は静岡駅、草薙駅周辺のコンビニからが便利です。

静岡市では、駿河湾の海の幸や名産の静岡茶、わさび、おでんなど、多彩な味覚をお楽しみいただけます。天気が良ければ、大学から富士山を望むこともできます。第 54 回大会への皆様のお越しを、実行委員一同、心よりお待ちしております。

変異原性QSARワークショップ 2025開催のお知らせ

QSAR を用いた変異原性予測とエキスパート判断の最前線

2025 年変異原性 QSAR ワークショップ (WS) は、日本環境変異原ゲノム学会 (JEMS) 第 54 回大会のサテライトミーティングとして、対面形式および後日のオンデマンド配信にて開催いたします。対面の会場は、静岡県立大学 草薙キャンパスで行います。WS は、二部構成で行い、サテライトミーティング 1 では、主要 QSAR ベンダー 3 社 (Lhasa, MultiCASE, Leadscope) によるニトロソアミン対応の最新技術動向を紹介いただき、サテライトミーティング 2 では、QSAR を用いた変異原性予測の実践的な使い方に参考となるセッションです。ケーススタディを通じて、ニトロソアミン事例に加え、Cohort of Concern 以外の変異原性物質について QSAR 予測結果の適切な解釈と科学的根拠に基づく専門家判断のプロセスについて議論します。

プログラムは下記の通りです。

1. 開催形式：第 54 回 JEMS 大会サテライト WS、対面および後日のオンデマンド配信
2. 日時：11 月 24 日（月、祝日）9:00~15:00
3. 場所：静岡県立大学 草薙キャンパス 看護学部棟 13411 講義室

サテライトミーティング 1 座長：小山 直己（中外製薬）、橋本 清弘（武田薬品工業）

- ・ イントロダクション

小山 直己（中外製薬）

- ・ Leveraging QSAR for the Safety Assessment of Nitrosamines

Dr. Christopher Barber (Lhasa limited President)

- ・ To clarify the basis for setting AI using Acroscopic, focusing on appropriate similarity calculations to support the standardization of nitrosamine evaluations in Japan

長遠 裕介（富士フイルム富山化学）

- ・ Nitrosamines: Questions and Answers

Dr. Roustem Saiakhov (MultiCASE Inc. President)

- ・ QSAR-QM Modeling of Nitrosamines Supporting Accurate Nitrosamine Potency

Dr. Kevin Cross (Leadscope, Instem)

ランチョンセミナー 座長：今西 浩之（インフォコム株式会社）

Computational Toxicology: Problems, Solutions, and Perspectives

Dr. Roustem Saiakhov (MultiCASE Inc. President)

サテライトミーティング2 座長：小山 直己（中外製薬），橋本 清弘（武田薬品工業）

- ・ ニトロソアミン類の許容限度値設定 従来の方法と新しいアプローチ
美濃 洋祐（日本たばこ産業）
- ・ 不純物の変異原性・がん原性予測の深化とエキスパートの役割
武藤 重治（中外製薬）
- ・ OECD QSAR アセスメントフレームワークにおける Ames 変異原性評価のケーススタディ
古濱 彩子（国立医薬品食品衛生研究所）
- ・ Ames 試験予測ソフトウェア xenoBiotic (2025)
澤田 敏彦（岐阜大学，株式会社ゼノバイオティック）
- ・ DataRobot を活用した Ames 変異原性予測モデルの構築
渡邊 賢治（田辺三菱製薬）

閉会あいさつ

橋本 清弘（武田薬品工業）

（文責：小山 直己）